

# ◆2026年度 中学入試 帰国生【英語】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
Part I	(1)	67.3%	71.4%	(1)基本文法に関する出題	全体の正答率を見ると、多くの受験者が基礎的な問題では一定の得点を確保できている一方、特定の文法事項に弱点を抱えている層が明確に存在することが分かった。
	(2)	77.6%	82.1%	(2)基本イディオムに関する出題	
	(3)	91.8%	92.9%	(3)語法に関する出題	
	(4)	12.2%	17.9%	(4)基本文法に関する出題	
	(5)	59.2%	67.9%	(5)基本イディオムに関する出題	
Part II	(1)	75.5%	85.7%	文法に即した英文を作ることができるかが問われた。日本語が与えられていない分、品詞・文型・語法の知識もポイントとなっている。	(3)は文意を汲み取り適切な語順に並べ替えられる受験生が多く、正答率が高かった。(2)については、前置詞forの使い方を見定められるかがポイントであった。
	(2)	42.9%	53.6%		
	(3)	67.3%	78.6%		
Part III	(1)	98.0%	100.0%	簡単な対話における適切な受け答え補充。文脈をしっかりと捉えられるかが問われた。	2人の対話の場面をイメージしながら、前後関係から正しく内容を理解することができた。
	(2)	93.9%	92.9%		
	(3)	100.0%	100.0%		
Part IV	(1)	79.6%	92.9%	2人の人物が課題の先送りに関して会話をしているシーンの中で、その話の文脈を正確に読み取り、空所に適切な表現を補充できるかが問われた。	空欄(1)(5)が高い正答率であったのに対して、(2)の正答率が55%であったことから、(2)で誤答を選んだ受験生は(3)(4)でもつまずいたように思われる。(2)は直前の文章を具体的に説明した選択肢が入ることに気づけるかどうかのポイントであった。空欄の数に対して選択肢の数が多いことから、消去法を活用して回答したい。
	(2)	55.1%	67.9%		
	(3)	61.2%	71.4%		
	(4)	67.3%	85.7%		
	(5)	75.5%	85.7%		
Part V	問1(1)	44.9%	64.3%	物語を読み、本文から得た教訓を読みとる。登場人物の行動を通して、内容理解力が問われた。	問1では根拠を本文の中から探して読むことができたかで差が開いた。問2では代名詞が誰のことを指しているのか理解できたか、そして具体的な行動と教訓を日本語で要約できたかどうかで、差が表れる結果となった。
	問1(2)	75.5%	85.7%		
	問1(3)	69.4%	85.7%		
	問1(4)	61.2%	71.4%		
	問2行動①	61.2%	82.1%		
	問2行動②	61.2%	82.1%		
	問2教訓	51.0%	78.6%		
Part VI	問1(1)	71.4%	89.3%	米国へ学びに来る留学生の状況や背景について、グラフと説明英文を読みとる。資料の分析力と内容理解力が問われた。	全体的に正答率が高く、本文の内容を的確にとらえた受験生が多かった。正答の選択肢を本文の内容から大きくパラフレーズした1(3)については、全体正答率と合格者正答率の差が大きく、この設問に正答できるかどうかのポイントとなった。
	問1(2)	69.4%	85.7%		
	問1(3)	46.9%	67.9%		
	問2(1)	87.8%	100.0%		
	問2(2)	69.4%	89.3%		
	問2(3)	71.4%	85.7%		
	問2(4)	77.6%	92.9%		
Part VII	①	83.7%	92.9%	与えられた条件の中で、文法や語彙を正確に扱うことができる力が問われた。	会話の流れを理解したうえで、指定された語句を利用して和文英訳することに苦戦しているように感じた。
	②	89.8%	96.4%		
Part VIII	-	91.8%	96.4%	海外経験の中でのよいマナーや習慣に言及し、またその理由について論述する問題。正確性よりも、内容を重視した設問となっている。	全体的に書けている受験生と、そうでない受験生との開きが顕著であった。スペルミスや基本的な文法ミスも多く見受けられた。